



2017年 5月号
No.255

大津島データ 191世帯
人口 278人 男115人 女163人
高齢化率 79.9%
(平成29年3月31日現在)

題字：六郎万淳一さん イラスト：まゆみさん

4月1日に開催した『桜まつり』では、老人クラブ交流会に須金の**福田護さん**、チャリティコンサートには**京太郎さん**と**大城バネサさん**が来島され、編集委員の渡辺あゆ子がコメントをいただきました。

桜まつりにようこそ



高田社長のご縁で、大津島を舞台にした曲を、夏に全国発売することになりました。私の島への思いが、曲を聞いて下さる皆さんに伝わるように、一生懸命心を込めて歌いますので、どうぞ応援よろしくお願ひいたします。 **京太郎さん**



私は壽富さんの兄弟分なんです。大津島は若い人たちが本当に良く頑張っているが、須金も負けてないですよ。こういう交流はずっと続いて欲しいと思います。

須金連合自治会長 **福田 護**

移動販売はじめました!

道の駅ソレーネ周南の移動販売車『ゆーとぴあ号』が、4月から毎週水曜日に大津島で販売を開始しました。肉や野菜、お弁当などさまざまな物を満載した移動販売車は、島で暮らす皆さんの楽しみのひとつになりつつあります。



島に引っ越して来ました



5月から支所でお世話になります。本浦で母と妹と3人で暮らしています。何もわかりませんがどうぞよろしくお願ひいたします。転入者(Uターン) **河島 哲江**

※他にも、この春に島へ引っ越して来られた方がおられます。別の機会にご紹介いたします。



4月2日に東京から刈尾の間へ引っ越してきました。自然に囲まれた島での生活が楽しみです。海釣りや野菜作りなど分からないことばかりなので、いろいろ教えてください！島文化や歴史にも興味があるので、気軽に話して頂けると嬉しいです。

よろしくお願ひ致します。転入者(Uターン) **まつた しょうご 松田 翔豪**

行事報告

島の主なできごとを写真で振り返ります。

4/1(土) 桜まつり、老人クラブ交流会、チャリティコンサート
今年は、京太郎さんのチャリティコンサートと合同で開催し、約300人の方が島内外からお越しいただきました。また、老人クラブ交流会では短い時間でしたが、旧交を温めました。



周南市役所大津島支所とデイサービスセンターの所長が、人事異動により4月1日付けで交代されました。

お世話になりました

これからよろしくお願ひします



4月1日付けで大津島支所長となりました。これまで生活保護や境界確認の事務経験が長く、支所での勤務は初めてです。よろしくお願ひします。

大津島支所 新所長 **佐伯 良光**



4月1日よりデイサービスセンターに勤務しております。今までは老人ホームつづみ園で仕事をしておりました。皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、これからよろしくお願ひいたします。

デイサービスセンター 新所長 **しんが けんじろう 新賀 研次郎**



あっという間の4年間でした。特産のすだいだいが料理の味を引き立てるように、大津島がより良い島になるようお手伝いをさせていただきました。

皆様の温かいご支援を心から感謝申し上げます。ありがとうございました

大津島支所 元所長 **神谷正幸**



地域の皆さん、大変お世話になりました。4月から新しい職場で右往左往、なんとかやっています。大津島の素敵な自然に囲まれて、楽しく仕事をさせていただいた4年間は、決して忘れることのできない、大切な思い出となりました。

皆さん、いつまでもお元気で…
デイサービスセンター 元所長 **北村 則和**

a notebook ヤマトリ雑記帳

文=嶋末由紀

ざっさちよう【雑記帳】秩序だてずいろいろなことを書きつけておく帳面。英 a notebook

NO.5 桜のコサージュ



花をちぎって蜜を吸う
ニューナイスズメは渡り鳥
林や森などを好み
瀬戸内では春にしかみかけない
めずらしい鳥らしい
所謂すずめ、の頬にある
黒いポッチがないそうです

来年はきっと姿をみれますように♪

徳山湾見聞録

3. 空から大津島を眺めてみませんか

文〓回天記念館
三崎英和

大津島上空では、ブーンという音とともに航空自衛隊のT-7練習機の姿をよく見かけます。

ちやうど、上空が訓練空域となっているのですが、民間航空機もよく目にします。

これは、島の西側に山口宇部空港や北九州空港、福岡空港があり、さらに中国の上海空港もほぼ一直線上に並びことから、これらの定期便の飛行ルートになっているからです。

そのうち、遙か上空に飛行機雲をたなびかせていく便は、上海など遠くの空港を目指しているものですが、低く、大きく見える便は山口宇部空港の離発着便です。

夜、同空港に向かう便は、一つひとつの窓明かりが確認できるものもあります。ついついことは、飛行機の中か

ら大津島が見えるのか…というところ、これが見えるのです。

東京行きの便は、姫島あたりまで南下するので期待できませんが、帰りの便は大津島上空から野島あたりをよく飛びのて眼下に島を眺めることが可能です。

ぜひ、下り便の進行方向右側の窓際の席を確保し搭乗してみてください。

ただし、くれぐれも翼の横の席は避けてください。視界が遮られますので。そして席が確保できたら、その日が快晴であることを祈りましょう。



～お知らせ～

海の郷では、4月から新たに『海の郷工房』を立ち上げ、海の郷利用者への食事の提供を開始しました。

利用者以外への食事提供のご相談も数件ありましたが、現在、限られた人数で運営しており施設外のお客様への対応が困難な状況です。当面、軌道に乗るまではお受けすることができません。

なお、対応が可能な状況になりましたらお知らせいたします。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

海の郷より

～お礼～

農機具のご寄付、ありがとうございました。海の郷と地区や島のために大切に使用させていただきます。

- 末兼南子さま(本浦) 草刈り機
- 松本千恵子さま(馬島) 管理機

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
7月1日 第256号

移動図書館 やまびこ号ジュニア
5月26日(金) 6月28日(水)
馬島11:30～ 刈尾12:20～

【編集後記】新たな出会いと別れ、そして始まりの4月があったという間に過ぎ去りました。春のポカポカ陽気と優しい海風の中で、気ままに潮流の編集をする…なんて事はできず、今夜もパチパチパソコンの前です。 文責：神杉朋史

【島の行事予定】

- 5月21日(日) 若潮の会総会【予定】
- 5月28日(日) 砲台山草刈り
- 5月下旬ごろ 大津島地区体育振興会役員会
- 6月上旬ごろ 大津島地区3団体総会
- 6月18日(日) 北部球技大会
- 6月21日(水) ハートフル人権セミナー
- 7月上旬ごろ 刈尾海岸クリーンアップ作戦
- 7月上旬ごろ 学校草刈り

知っちょるかね

石屋の子やじいあ

※子やと子ども
文〓松本千恵子

「オーイ、子らあを家に入れよ」と、父ちゃんの大声。母ちゃんは庭で遊びよる子やとを、急いでかき集め家の中の一番奥まった部屋に入れ、その上に覆い被さる。程なく、ドォーンと腹に響くような音がしたかと思うと、バシバシバリバリとけたたましい音が屋根で響く。

音が収まった頃、ようやく母ちゃんは子供達を離して、「遊んでもいい」と外に出す。庭には小さな石の欠片が、たくさん落ちていた。発破が終わったのだ。「石を片付けるまで待って」という母ちゃんの言葉など聞いた風もなく、子供達は中断された遊びに戻って、くんじゅうなす。母ちゃんは大急ぎで竹箒で、欠けたままで鋭い小石を掻き捨てる。発破で飛び散

った石はとても鋭く、子供達の足など簡単にキズつけてしまうから。父ちゃん達は、発破で落とした岩にたかっ、次の作業の算段をしている。子供達にとっでは、そんな大人の状況など、どこ吹く風で乗ると危ないと思われたクス石の山やら、また切り出す前の大岩の上を飛び歩いて遊ぶ。

黒髪島太刀ノ浦、石切を生業としていた頃の子供時代、大人達が石をインչやインちというサイズに切る、それをソリで崖つづちまで運び、崖を転がし落とす、落とした石をモッコで細い歩み板を渡って船に乗せる。全て人力の厳しい暮らしの日々だったが、子供達は豊かな自然に抱かれて、おおらかに生を育んだ。時には発破で屋根に穴が開き、そこから青空が見

ひろしのつぶやき

文〓屋野廣志

戦後まもなく各地区で素人演芸がやはり好評だった。笑いに飢えた当時、各地区の青年団や婦人会などで企画され、民謡や安易な寸劇、浪曲、かくし芸など、公会堂や学校の教室などを借りて行った。

先日の桜祭り、噂の京太郎コンサート、第3部「九段の母」の洗練された身のこなし、美声に聞き入った。一時期の素人芝居での先輩青年が老母に扮した「九段の母」の当て振りの芸が京太郎の熱演に重なり、笑いに飢えた当時の笑いと感動は今でも記憶に新しい。

昭和45年に砂浜の美しさ海水の清さを誇る刈尾海水浴場開設となり、当時、戦後生まれの大勢の子供と共に自由に憩ふ事の出来る喜びの人、人、人。開設期の土・日曜日は臨時の駐在官の派出もあり、場所取り予約で広い三棟の休憩所は満席となり、木陰を求める客の案内に困り果てた従事者。そんな時期も10年間位は続いたか。街の方では大型のレジャーセンター、広い安全なプールの設置に、田舎芝居の



えたととして、時には嵐の夜に真っ暗な中、妹が産まれたとしても、毎日それは色濃くその一瞬を生きていた。学校に上がるからと黒髪の暮らしを終え、島を離れる時は、とても切なかったなあ。今でも私は黒髪を見るたび、命燃やして遊んだ日々を懐かしむ。



素朴で自然を誇る刈尾海水浴場も、季節を問わず安全で楽しいレジャー産業の高度成長の利便性には抗するすべも無く寂しく消へ去る事になる。又、平成7年には離島新産業等支援などと名付けたふれあい買物ツアーなる大変な行事が年6回、馬島、本浦、刈尾の巡で行われた。水槽で元気に泳ぐ魚など好評であるが、重たい大根や芋など、近いスーパーや大型店の便利さに負け、ふるさと振興財団の御苦勞もむなしく数回で終りとなる。この度始まる移動販売車の成功を願い、さて私は何を求めようかと…ひろしひとつつぶやへ。

※原文のまま掲載しています。